

医療機器の進歩や普及により、医療現場で臨床工学技士の存在感が高まっている。山梨県立中央病院でも臨床工学技士が携わる手術が近年増えるなど活躍の場を広げている



深沢智幸  
主任臨床工学技士

という。同院臨床工学科で主任臨床工学技士を務める深沢智幸さんは「機械を通して患者と日々向き合っている」と話す。

臨床工学技士は医学と工学の両面に精通した職種。同院では21人が在籍し、5年前(13人)と比べて1.6倍に増加した。主に人工透析と手術の2部門に分かれて、生命維持管理装置の操作や保守点検に携わっている。

手術に関わる。呼吸管理に欠かせない人工呼吸器は「ON」で動作させるわけではなく、自発呼吸の程度に合わせてさまざまな「モード」が存在。臨床工学技士は患者の状況を総合的に判断して医師に報告し、指示通りに機器

手術に関わる。呼吸管理に欠かせない人工呼吸器は「ON」で動作させるわけではなく、自発呼吸の程度に合わせてさまざまな「モード」が存在。臨床工学技士は患者の状況を総合的に判断して医師に報告し、指示通りに機器

新型コロナウイルス感染症による重い肺炎の治療で用いる人工心肺装置「ECMO(エックモ)」にも欠かせない存在で、同院はローテーションを組んで24時間体制を敷いてきた。今年8月にはエクモを必要とする患者に対して現場で迅速に対応するために、臨床工学技士が救急車に乗乗する仕組みの運用を開始。深沢さんは「取り扱える人材をもっと増やしていきたい」と力を込める。

## 臨床工学技士活躍の場広がる

## 透析、手術で医師サポート

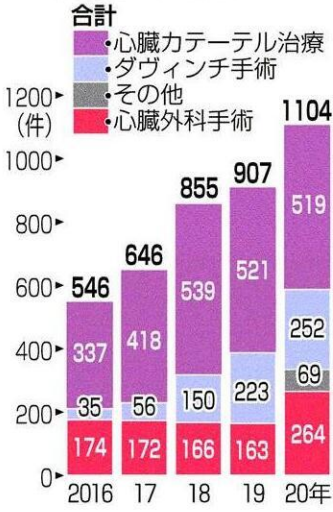
手術部門では、心筋梗塞や狭心症などの患者に行う心臓カテーテル治療や、人工心肺装置などを装着する心臓外科

を動かす能力が求められるといい、「医療や薬に対する深い知識も必要になる」と話す。外科手術の大きな発展に貢

以降、ダウインチを利用した手術は増加。このほか、20年1月には心臓外科手術などで血管内超音波診断装置の操作を医師の指示の下、臨床工学技士が担当するようになった。さらに整形外科、耳鼻咽喉科、脳神経外科の手術にも参加。業務の幅が広がった結果、臨床工学技士が関わる手術は20年に1104件となり、16年(546件)の約2

一方、手術では意識がない状態の患者と対面するため、一般の認知度が高くない職種という。深沢さんは「患者と直接触れ合えないのは少し寂しい」と冗談めかして笑いながらも、表情を引き締めて続けた。「機器の操作を誤れば患者に悪影響を与えかねない。表には出ないが大切な役割を担っている」

### 山梨県立中央病院 臨床工学技士が関わる 手術件数の推移



倍にまで増えた。

第2、4木曜日に掲載します